

図工のみかた

図工の先生のそのまわり

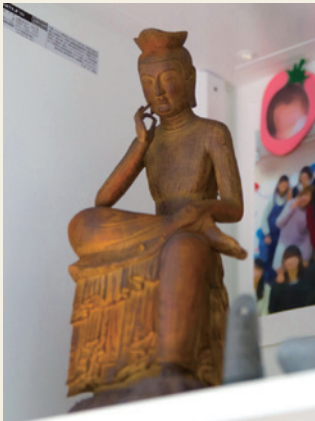
MIKATA NO MIKATA

図工のみかたのみかた

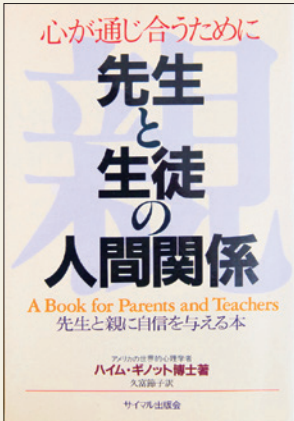
今号の図工のみかた、
奥村先生をかたちづくるもの。
奥村先生自身を注釈するような本・言葉、
「つながっている」ことを教えてもらいました。
(中面本文ともつながっています)

- ※6 そう説く奥村先生も教師1年目は「俺は先生だ!」という熱血ノリで、子どもが何を考えていようとおかまいなしに突っ走る教員だったという。クラスの女子生徒全員に背中を向けられ、自信を喪失したときに同僚からもらった1冊の本『先生と生徒の人間関係一心が通じ合うために』。この本に書かれていることを実践してから、子どもとの人間関係が本当に改善し始めたという。奥村先生のバイブル。(参考画像2)
- ※7 直接目にした現象だけではなく、書物を通して知り得た事象も自分の世界になる。奥村先生いわく「読書は対話」。その本の著者と対話し、本に書かれている向こう側の人たちとも対話できる。
- ※8 詳細は、奥村先生の『マナビズム―「知識」は変化し、「学力」は進化する』(東洋館出版社刊、2018年7月)を参照。
- ※9 モットーは「汝、何の為に其処に在り也」。もはや実践者として現場に立つ年齢ではないので、若い教育者を信じてどうバトンタッチしていくべきかを考えている。それが今の奥村先生の「汝、何の為に其処に在り也」。(参考画像3)
- ※10 思考だけじゃなく、判断も技能や知識も、学びに向かう力だって見えていまずよね(^^)by奥村先生
- ※11 ジャズプレイヤーのSonny Rollinsが来日したとき、宮崎市でコンサートをしてもらおうと、奥村先生をはじめ有志が集まって資金集めや会場手配など全て自分たちで手掛け見事に成功させた。コンサートのポスターも「美術の先生なんだから、かけるよね?」という感じで仲間からお願いされ、奥村先生がかいた。(参考画像4)
- ※12 奥村先生の著書を読まれた方はお気づきだと思うが、奥村先生は注釈好き。本文の文章は簡潔にしたいが、その一文にしたためた溢れる思いが注釈として表れている。

- ※1 「武器の競技」1966 ヴァレリアーノ・トルッピアーニ 宮崎県立美術館蔵
- ※2 世の中の様々な事象に対して子どもが自分なりの意味を見つけている。そのことを、溺愛するお孫さんを通してまざまざと見せつけられている奥村先生。“R”が付くものは「JR」、×印はグリーン車のマークかつ通行止めの標識と、形をある程度の塊で捉えて、今まで分からなかったことと結び付けながら言葉を獲得していく姿に感動している。ちなみに、お孫さんが覚えた言葉は「ママ」「ジジ」の順で、「パパ」より先に覚えてくれたことにほんの少し優越感を抱いている。
- ※3 奥村先生を美術の世界へ向かわせたもの、それが広隆寺の本造弥勒菩薩半跏像(宝冠弥勒)。浪人時代、勉強にも疲れた頃、ふと立ち寄った図書館で何気なく手に取った画集。そこに掲載されていた半跏思惟像の写真の美しさに魅了される。「彫刻をつくろう」と思い立ち、法学部志望から美術に方向転換した。(参考画像1)
- ※4 鑑賞は作品を見るだけではなく、美しさやよさを感じ取るアンテナの数を増やして、心の感度を上げる時間。だから対象はスポーツでもよくて、大谷翔平選手のプレーを見て「カッコいい」と思うのはなぜ?」から始めてもいいかもしれない。「こんなやり方ならこの子はもっと考えを広げられるかな」「鑑賞を通してこんなこともしてみよう」など、美術を越えた視点で授業を考えるといい、と奥村先生は言う。
- ※5 新しい学習指導要領の肝は「子どもたちは教科を越えて三つの柱を活用して学習している」ということ。鑑賞も三つの柱を育てるための学習活動であり、世の中の様々な事象に対して美しいと感じ取る行為と考えれば、もはや図工・美術という枠にとらわれてほしくないと、奥村先生は強く思っている。



参考画像1 奥村先生の研究室にて、宝冠弥勒(レプリカ)が見守っている。



参考画像2 ハイム・ギノット(著) 久富節子(訳) サイマル出版会刊



参考画像3 奥村先生の研究室にて。友人の言葉が先生の座右の銘になった。



参考画像4 奥村先生の力作。

学習指導要領

「思考力、判断力、表現力等」ってなんだ?②



感じたことから考えを組み立てる (p.02)

対話で見方が“スパーク” (p.07)

自分の見方や感じ方を深める

今号のキーワードは、鑑賞する活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」。子どもたちは、感じたことと、自身の知識や経験を結び付け、自分の考えを組み立てています。さらに、自分にはない考えと出合い触発されるような対話を通して、自分の見方を広げています。このように、感じ、結び付け、考え、改めて対象に向き合うということを繰り返すことで、見方が深まり、世界をより豊かに味わうことができるのではないのでしょうか。

感じて、自他の考えを結び付けて、自分なりに思考する、

その繰り返しが、「見方や感じ方を深める」ことなのです。

学習指導要領 資質・能力の三つの柱

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

図画工作の目標 (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。A 表現を通して育成する思考力、判断力、表現力等 B 鑑賞を通して育成する思考力、判断力、表現力等

※造形的な見方・考え方 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編より)

表紙『すなやつちと なかよし』(1年生)

砂や土の感触を体全体で味わいながら、思い付いたことを試す造形遊びの題材。砂を固める感じを味わいながら、型取りする。型取りした形を見ながら、してみたいことを思い付く。感じたことがつながって、自分にとっての意味が生まれてくる。

平成27年(2015年)年度 小学校図画工作教科書1・2上 p.12-13

クリエイティブディレクター: 池田晶紀(ゆかい)

アートディレクター: 畑ユリエ

表紙写真: 池ノ谷侑花(ゆかい)

フォトグラファー: 川瀬一絵、池田晶紀(ゆかい)

イラストレーション: やまねりょうこ(ゆかい)

図工のみかた 06号

日文教育資料【図画工作】

平成30年(2018年)7月20日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33409

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18 7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-11
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

INTERVIEW

奥村高明

(日本体育大学教授)

学習指導要領

「思考力、判断力、表現力ってなんだ?②」

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配付を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

日文

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版



鑑賞は、感じたことから 自分の考えを組み立てること

子どもって、美術館で「分からない」って言わないんです。私が学芸員だった頃、美術館に戦闘をテーマにした彫刻^{※1}を展示していたことがありました。金属片の付いた直方体を、ばねが支えているような作品です。大人は「分からない」と言ってその前を通り過ぎていく。そんな中、小学2年生の子どもが「あ、ミサイル！」って言ったんです。作品はミサイルの形ではないのに。「なんで？」って聞くと、「だって、ぐるぐる上がっていくでしょ、そのあと落ちて、街を壊すの」って。その子は、ばねの形から飛ぶ動きを、金属片から「壊す」イメージを感じ取って、ミサイルだと考えた。作品を見て感じたことから、自分なりに意味付けているんです^{※2}。

子どもはそもそも分からないものだらけの不思議世界に生きています。だから「これ何？ あれ何？」「なんでだろう」って必死に分かろうとして、自分の考えを組み立てている。感じたことから、形や色、イメージ、経験を結び付けて、思考しているんです。

感じたこと、全部正解

例えば、弥勒菩薩像^{※3}を見て「どう思う？」と子どもに尋ねたとき、「指の形がきれい」「目が細いのがいい」といろいろな答えが返ってきます。そのどれもが正解です。感じたことに間違いはありません。作品を見て感じたこと、考えたことを自由に言ってい。多様な見方・感じ方が保障されているのが、美術の鑑賞です^{※4}。

だから鑑賞は、「唯一無二の正解に近づけるための」鑑賞ではないんです。先生が正解を想定して、子どもの言葉に「それは（正解と）違うかな」と返す。それでは、その子がどう感じどう考えたかを捉えられなくなってしまう。「その子が思考する」鑑賞の活動なんです^{※5}。子どもはすごいことを考えています。子どもの側に身を置いて^{※6}、いっしょにその「すごいこと」に思いを馳せてください。

今号のキーワードは、
鑑賞する活動を通して育成する
「思考力、判断力、表現力等」。
子どもの姿と図工の見方について、
図工の味方、
奥村高明先生に聞きました。

語り手

奥村高明

(日本体育大学教授)

対話で見方が“スパーク”する

感じ方は一人じゃなかなか深まりません。他の人の感じ方に出合うことで深まっていくんです。喩えて言えば、脳の中には電線が絡まっている。その電線は目や耳などの感覚器官とつながって世界を捉えています。そこまでが「私の脳」。でも誰かと対話することで、電線がつながってネットワークが広がる。自分とは違う見方とつながることで、発想と発想がぶつかってひらめき生まれるような、“スパーク”が起こる。そうやって私とあなたの見方が“スパーク”するような対話^{※7}を通して、見方や感じ方が広がり深まっていくんです。

『でこぼこはっけん』という、紙粘土で身の回りの凹凸を型取りしながら鑑賞する題材があります。ある先生から伺ったのですが、「学校の中にはいろいろな面白い形があるね」と授業を終えたあと、外を見て「水たまりもでこぼこだ」って言った子がいたそうです。確かに、水たまりも大きな凸凹の「形」です。思えば月のクレーターも凸凹の「形」。その子の発見から、私の見方も広がった。題材や誰かの発想と“スパーク”して見方が広がる。そうして世界の見え方が変わっていくんです。

表現しながら鑑賞している

昔、発泡セメントを使って立体に表すという題材を実践したときのこと。古いノミとかを金づちでたたいてコツコツ削っていくんですが、しばらくするとAさんが金づちで直接発砲セメントを砕き始めました。Aさんはどンドン試す子なので「きょうも始めたな」と思っていたのですが、隣にいたBさんもまねし始めた。Bさんはすぐおとなしくて、いつも地道に作品をつくる子。この子にとって金づちで直接砕くって大冒険なんですよ。BさんはAさんの活動を見て、「そんなやり方もあり!？」って考えが広がったのでしょうか。表現しながら子どもたちは鑑賞しています。感じたことがつながってスパークするのはいいんですよ。

見方の深まり、 分かるのはそばにいる先生

実はこのとき、私はAさんを止めて、Bさんには「もっとやってごらん」と促しました^{※8}。二人が同じことをやっても、それまでその子たちがどんな学びのプロセスを経てきたかで全く意味が違います。活動の後押しするか、立ち止まっていっしょに考えたほうがいいかの判断ができるのは、授業を通してずっと付き合っている先生です。見方や感じ方を深めているというのは、その子を知っている先生しか分からない。だから、「鑑賞の授業で先生は何をすればいいの？」って問われれば、「今の先生でいいですよ」と言ってあげたい^{※9}。だって、先生はずっと子どもといっしょにいて、その子を知ってるでしょ。

その子の思考が見える

図工って、一番子どもを認めやすい時間です。だって、その子がつくったものが机の上にあるんです。目の前にその子の思考^{※10}が形と色になって出てきている。つまり、子どもが見える。先生も、友だち同士も、作品からその子を認められるんです。でも子どもを認めるのは、図工の時間にしかできないことじゃありません。「図工だから」と教科の枠で考えず、「その子を見て、その子の考え方を大切にしたい、力を育む」ということをいつでも大切にしたいと思っています。

おくむら・たかあき

1958年、宮崎県^{※11}生まれ。小中学校教員、美術館学芸員、文部科学省教科調査官、聖徳大学教授を経て、現在日本体育大学児童スポーツ教育学部教授。学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者(平成29年告示小学校図画工作)。「子どもの絵の見方」『マナビズム』(東洋館出版社)、日本文教出版Webマガジン『学び!と美術』^{※12}を執筆するなど、美術教育の発展と、何より子どもの育ちに努める。



『色・形 いいかんじ!』

水彩絵の具でできることを試し、思いのままにかいていく。
水の量を変えたり、色を混ぜたり、友だちがかくのを見たりしながら、
いいなと感じる自分の形や色が見つかる。

平成27年(2015年)度版 小学校図画工作科教科書3・4上 p.10-11
※1～6年生の6人が、1枚の紙で実践。友だちのかいた形や色を見て、それに触発されながら、自分
の「いいかんじ」をかいていく。それぞれの「いいかんじ」が繋がっていく。



感じたことがつながっていく。

感じたことと、
感じたことがつながって、
知識や、経験がつながって、
友だちの考えがつながって、
感じ方は広がっていく。

「できた！」のその前には、
感じたことの
「つながり」があります。